

事業番号	355
------	-----

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	生涯学習相談事業					担当部	教育委員会事務局					
	会計区分	一般会計			事業類型	一般	担当課	生涯学習課					
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	社会教育係				
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		17 生涯学習		1 「こまなび」を推進する						
		副目的											
	予算区分	款	10	項	5	目	1	大	5	中	1		
	根拠法令・個別計画	生涯学習相談員設置要綱、生涯学習指導員設置要綱											
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	生涯学習情報誌「こまなび」等やホームページによる情報発信をするとともに、電話や来館などによる問い合わせや相談に対して支援し、生涯学習活動の推進・活性化を促す。											
内容 (手段)	<p>生涯学習指導員、生涯学習相談員・臨時職員の配置 生涯学習情報ガイド「こまなび」の発行(年2回) 平成24年度前期第11号、平成24年度後期第12号。 ホームページの掲載、出前講座の実施 平成24年2月からこまなびサロンを開設 職員は、市民講座修了生の育成事務。生涯学習情報誌「こまなび」の編集事務。生涯学習講師・ボランティアの登録・相談事務。こまなびフェスティバルの運営補助事務。 出前講座の運営補助事務。 平成25年3月第3次小牧市生涯学習推進計画策定。</p> <p>【直接経費の内訳】 講師謝礼(300,300円)、旅費等(39,460円)、こまなび印刷製本費等(4,200,000円) 備品購入費(58,400円)</p> <p>◎25年度実施内容 24年度と同様に実施する。 講師謝礼(186,000円)、旅費等(144,000円)、こまなび印刷製本費等(3,327,000円)</p>												
受益者負担	無												

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	1,393	4,003	4,598	3,657	
	費用	正職員	従事者数	人	0.92	0.14	0.04	0.04
			人件費	千円	4,903	746	213	213
		その他職員	従事者数	人	1.13	0.39	0.21	0.21
			人件費	千円	2,170	715	2,100	2,100
	費用合計		千円	8,466	5,464	6,911	5,970	
対前年比		%		64.5	126.4	86.3		
財源	一般財源	千円	8,466	5,464	6,911	5,970		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	績	生涯学習情報ガイド「こまなび」の発行	部	目標	10,000	110,000	110,000
実績				10,000	110,000	110,000	
業	出前講座の講座数	講座	目標	—	—	—	—
			実績	120	120	106	
績	成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25
			目標	—	—	—	—
業	出前講座の要請数	講座	実績	90	133	128	
			目標	52	53	53	
績	こまなびフェスティバル参加団体数	団体	実績	50	50	52	

事業の自己評価	平成24年度の達成状況	生涯学習情報誌「こまなび」、ホームページを通して生涯学習の情報提供に努めた。市民からの生涯学習にかかる相談の対応や市民団体の活動を把握し、アドバイスに努めた。出前講座を通して市政の情報提供に努めた。市民団体の学習成果の発表の場として「こまなびフェスティバル」を開催し、例年並みの参加団体数を維持した。また、第3次生涯学習推進計画を策定した。なお、発行部数については、広報にあわせ各戸への配布が必要であるので、55,000部×2(前期後期)とした。		
	事業実施における課題	平成24年2月から市民講座を実施している公民館に学習相談や学習情報の提供を行うこまなびサロンを開設し、学習相談件数は増加しているものの、更に学習相談機能の充実を図る必要がある。		
	事業を縮小・廃止したときの影響	市民の生涯学習の機会が少なくなり、学習を通じた自己実現や仲間づくり、更には地域課題解決に取り組む機会が少なくなる。		
	平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	こまなびサロンの増員。市民企画講座の実施。生涯学習ボランティアコーディネーター養成講座の実施。	
	平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
	判定理由	市民の自己実現、仲間作りや地域の課題解決のために、行政が市民の生涯学習の機会を提供することは、引き続き必要である。		
	26年度以降の改善案	第3次小牧市生涯学習推進計画が策定されたところであり、学習活動の機会を通して様々な人と交流できる環境の整備、学びを活かし社会に還元される仕組みづくりなどを検討する。		

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。